

# in 九州

## 今月の注目データ

今月は「イチジクの収穫量」と「蜂蜜の国内生産量」です。

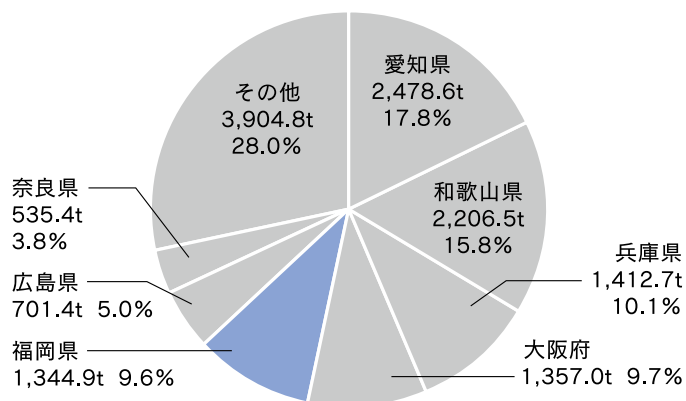
## イチジクの収穫量



イチジクは、実の内側に小さな花がつき、外から花を見ることができないことから、漢字では「無花果」と書きます。イチジクは、生食はもちろんのこと、ジャムにしても美味しい果物です。そんなイチジクの収穫量を都道府県別に見てみると、福岡県が第5位（9.6%）となっています。

福岡県のみで栽培されている品種『博多とよみつひめ』は、福岡県農業総合試験場豊前分場（福岡県行橋市）で、長い年月をかけて開発され、2006年（平成18年）に品種登録されました。『博多とよみつひめ』は、果形がふつくら

### イチジクの収穫量



（出所：農林水産省統計「平成26年産特産果樹生産動態等調査」を基にFFQビジネスコンサルティング作成）

と丸く、果汁が豊富で、果肉が平均糖度17度と高いことが特長です。  
『博多とよみつひめ』は、ハウス栽培のもので5月から、露地栽培のもので8月から全国に出荷されており、その出荷量は年々増加しています。

九州の身近なデータを  
ワンポイント解説する  
コーナーです。

# DATA



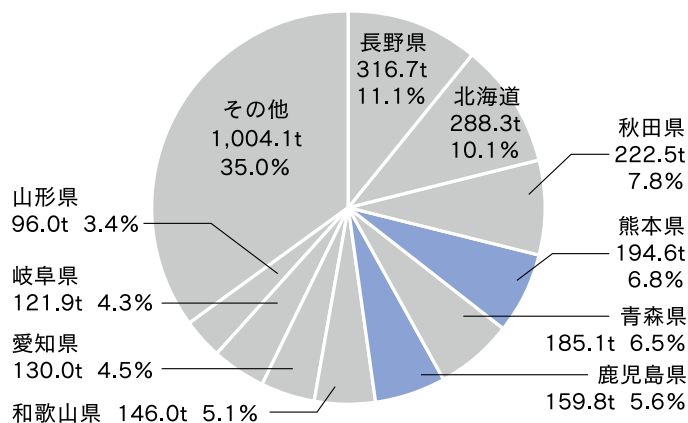
## 蜂蜜の国内生産量



8月3日は「蜂蜜の日」。1985年（昭和60年）、日本養蜂はちみつ協会と全日本はちみつ協同組合が、「8（はち）3（みつ）」という語呂合わせから、この日を記念日と制定しました。

国内で消費される蜂蜜（39,058t）の自給率は7.3%（2,865t）と低く、ほとんどは海外からの輸入（うち72.9%が中国）に頼っています。そんな蜂蜜の国内生産量を都道府県別に見てみると、熊本県が第4位（6.8%）、鹿児島県が第6位（5.6%）となっています。

蜂蜜の国内生産量



（出所：財務省貿易統計及び農林水産省畜産振興課調べを基にFFQビジネスコンサルティング作成）

国内産の蜂蜜は主にセイヨウミツバチの養蜂で採取されますが、特に九州地方では古くからニホンミツバチの養蜂により採取されていました。現在でも、宮崎や長崎、大分各県の一部の市町村において、ニホンミツバチの養蜂で採取された貴重な蜂蜜のブランド化を進めるなど、ニホンミツバチで地域を活性化しようとする動きが出てきています。